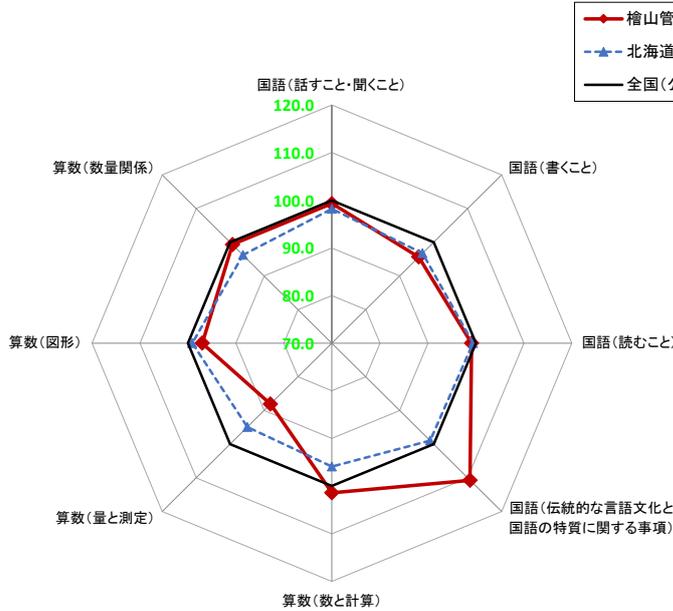


■小学校の状況(学校数:19校、児童数:219人)

【教科全体の状況】

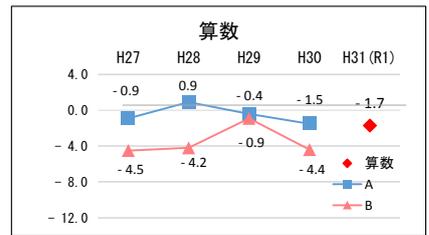
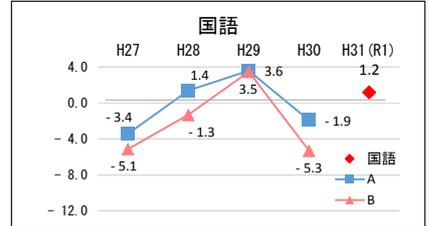
教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び管内の状況をレーダーチャートで示したものと
(全道及び管内の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)



【平均正答率】

	国語	算数
檜山	65[65.0]	65[64.9]
全国	64[63.8]	67[66.6]

【平均正答率の推移】(数値は管内の数値)

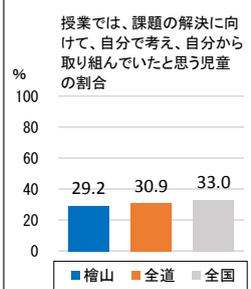


※「管内の平均正答率-全国(公立)の平均正答率」の経年変化

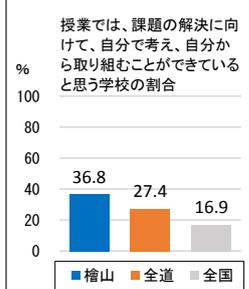
【質問紙の状況】

学習意欲、指導方法

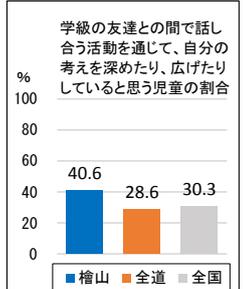
* 児童質問紙



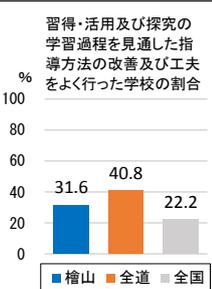
* 学校質問紙



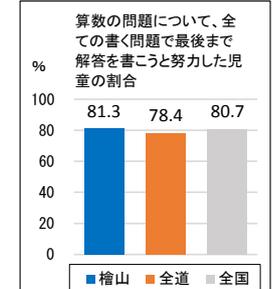
* 児童質問紙



* 学校質問紙

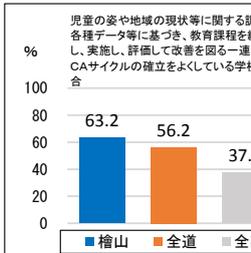


* 児童質問紙

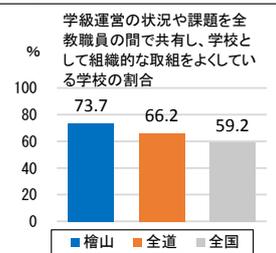


カリキュラム・マネジメント

* 学校質問紙

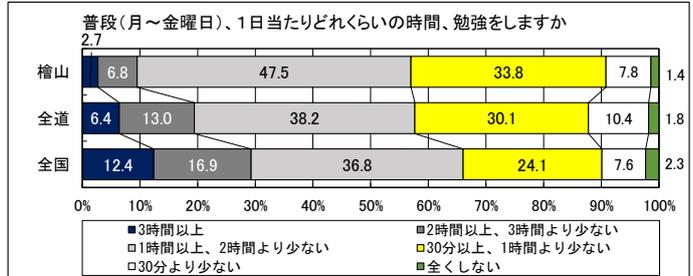


* 学校質問紙



学習習慣

* 児童質問紙



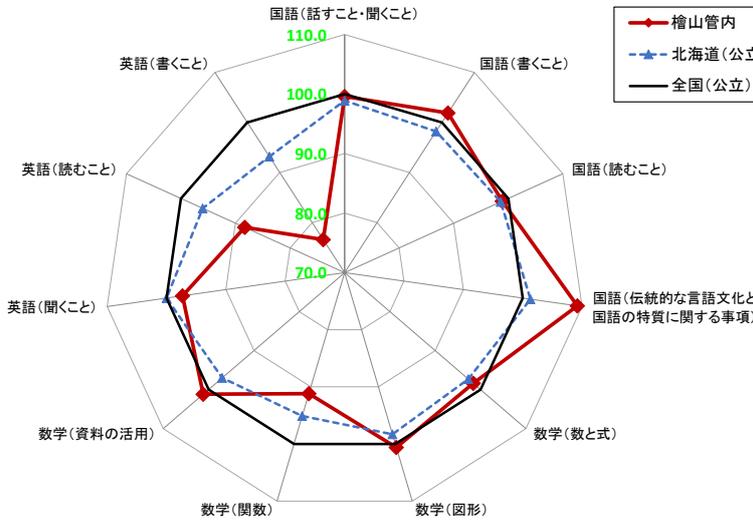
【分析及び改善の方向性】

分析	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校でテーマを決め、講師を招聘するなどの校内研修をよく行っている学校の割合は42.1%、授業研究や事例研究など、実践的な研修をよく行っている学校の割合は68.4%で、全国を下回っており、課題である。 ○ 近隣の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組をよく行った学校の割合は5.3%、授業研究を行うなど、合同して研修をよく行った学校の割合は15.8%で、全国を下回っており、課題である。 ○ 普段(月～金曜日)、1日当たり1時間以上勉強している児童の割合は57.0%で、全国を下回っており、課題である。
改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業改善に向けて、教諭及び主幹教諭を対象に「授業力アップセミナー」を実施し、単元の指導計画の作成及び1単位時間の授業づくりに係る講義・演習を行うとともに、振興局地域政策課所管の「地域をつなげるネットワーク」Web会議機能を活用し、授業づくりや校内研修の進め方等についてコンサルティングを行う必要がある。 ○ 「教育課程研究協議会」を開催し、全小・中・高校の教頭と教務主任を対象に、「学校力向上に関する総合実践事業」実践指定校の授業参観と研究協議を行い、学校種間の連携の強化に向けた意識の向上を図る必要がある。 ○ 児童の学習習慣形成に向けて、児童が自分のつまずきを把握し、教科書を使った学び直しをするための、ほっかいどうチャレンジテストを活用した学習支援ツール「ジブンde勉強」を作成し、各学校での活用を促進する必要がある。

■中学校の状況(学校数:10校、生徒数:218人)

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び管内の状況をレーダーチャートで示したものと(全道及び管内の平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100で算出)

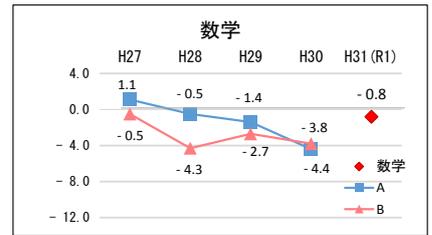
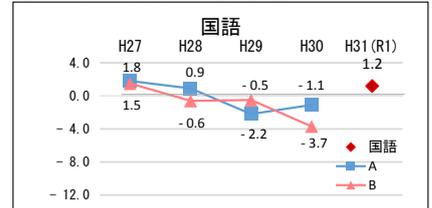


【平均正答率】

	国語	数学	英語
檜山	74[74.0]	59[59.0]	49[49.4]
全国	73[72.8]	60[59.8]	56[56.0]

※英語は、「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の合計値

【平均正答率の推移】(数値は管内の数値)

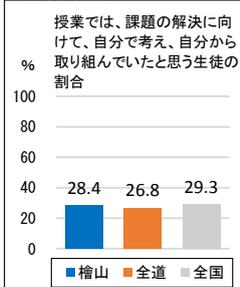


※「管内の平均正答率-全国(公立)の平均正答率」の経年変化

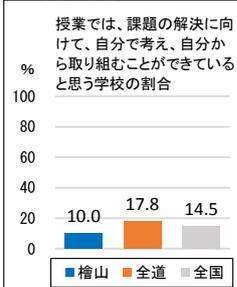
【質問紙の状況】

学習意欲、指導方法

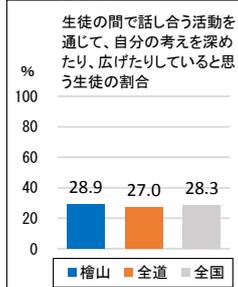
* 生徒質問紙



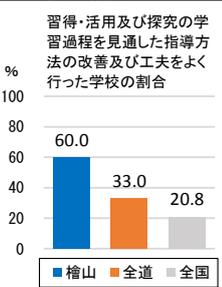
* 学校質問紙



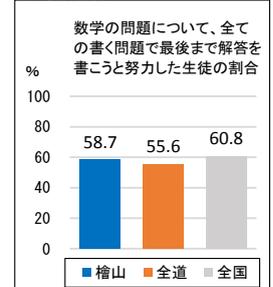
* 生徒質問紙



* 学校質問紙

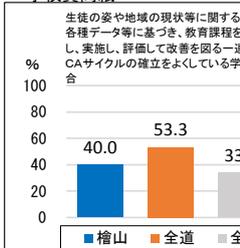


* 生徒質問紙

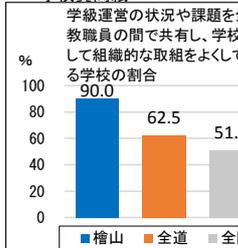


カリキュラム・マネジメント

* 学校質問紙

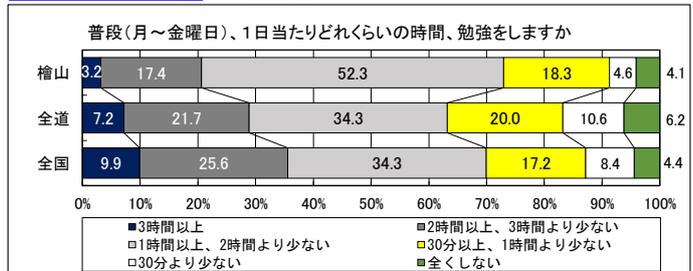


* 学校質問紙



学習習慣

* 生徒質問紙



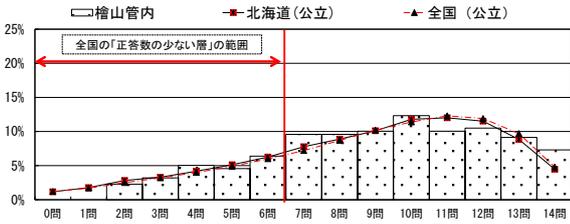
【分析及び改善の方向性】

分析	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習指導と学習評価の計画の作成に当たって、教職員同士がよく協力し合っている学校の割合は20.0%で、全国を下回っており、課題である。 ○ 近隣等の小学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組をよく行った学校の割合は10.0%で、全国を下回っており、課題である。 ○ 普段(月～金曜日)、1日当たり2時間以上勉強している生徒の割合は20.6%で、全国を下回っており、課題である。
改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教諭及び主幹教諭を対象に「授業力アップセミナー」を実施し、単元の指導計画の作成及び1単位時間の授業づくりに係る講義・演習を行うことにより、学習指導と学習評価の計画についての理解を深めるとともに、学校教育指導等において、学校として生徒に身に付けさせたい資質・能力を明確にした教育課程の編成について指導助言を行う必要がある。 ○ 「教育課程研究協議会」を実施し、全小・中・高校の教頭と教務主任を対象に、「学校力向上に関する総合実践事業」実践指定校の授業参観と研究協議を行い、学校種間の連携の強化に向けた意識の向上を図る必要がある。 ○ 生徒の学習習慣の一層の定着に向けて、生徒が自分のつまずきを把握し、教科書を使った学び直しをするための、ほっかいどうチャレンジテストを活用した学習支援ツール「ジブンde勉強」を作成し、各学校での活用を促進する必要がある。

檜山管内

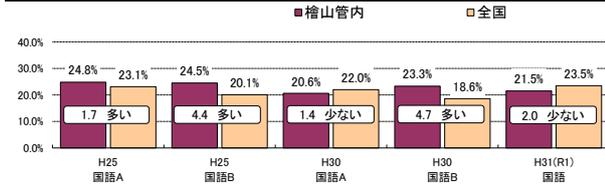
小学校国語

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
檜山管内	219	9.1 / 14	65.0	9.0	3.2
北海道(公立)	38,831	8.8 / 14	62.8	9.0	3.4
全国(公立)	1,028,203	8.9 / 14	63.8	10.0	3.4



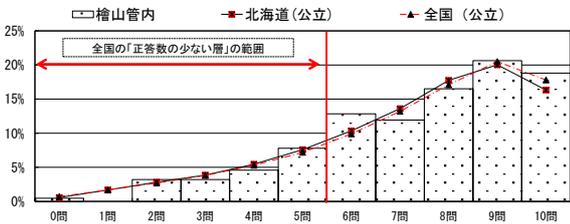
●全国の「正答数の少ない層」は、6問以下の正答数

全国の「正答数の少ない層」と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合



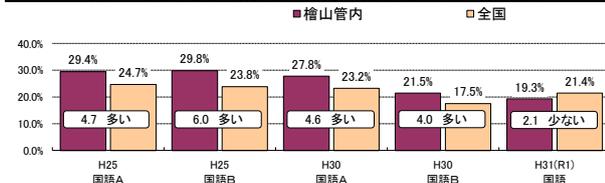
中学校国語

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
檜山管内	218	7.4 / 10	74.0	8.0	2.2
北海道(公立)	37,859	7.2 / 10	72.1	8.0	2.4
全国(公立)	938,797	7.3 / 10	72.8	8.0	2.4



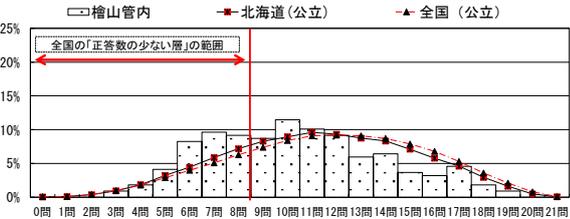
●全国の「正答数の少ない層」は、5問以下の正答数

全国の「正答数の少ない層」と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合



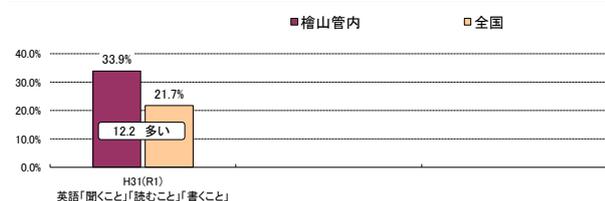
中学校英語「聞くこと」「読むこと」「書くこと」

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
檜山管内	218	10.4 / 21	49.4	10.0	3.6
北海道(公立)	37,844	11.4 / 21	54.2	11.0	3.8
全国(公立)	938,888	11.8 / 21	56.0	12.0	3.9



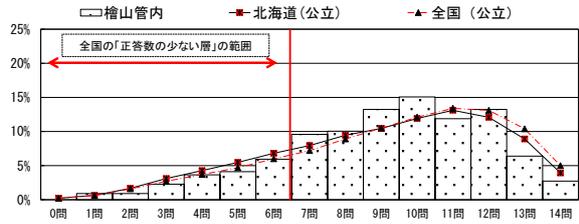
●全国の「正答数の少ない層」は、8問以下の正答数

全国の「正答数の少ない層」と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合



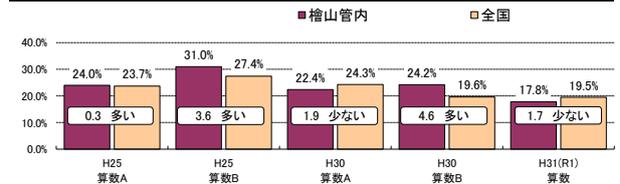
小学校算数

	児童数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
檜山管内	219	9.1 / 14	64.9	9.0	2.8
北海道(公立)	38,837	9.0 / 14	64.5	9.0	3.1
全国(公立)	1,028,177	9.3 / 14	66.6	10.0	3.1



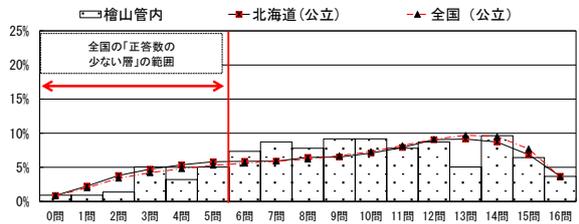
●全国の「正答数の少ない層」は、6問以下の正答数

全国の「正答数の少ない層」と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合



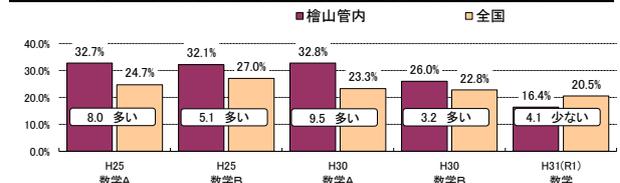
中学校数学

	生徒数	平均正答数	平均正答率(%)	中央値	標準偏差
檜山管内	218	9.4 / 16	59.0	10.0	3.9
北海道(公立)	37,844	9.3 / 16	58.1	10.0	4.2
全国(公立)	938,887	9.6 / 16	59.8	10.0	4.2



●全国の「正答数の少ない層」は、5問以下の正答数

全国の「正答数の少ない層」と同じ正答数の範囲に含まれる生徒の割合



【参考】【平成28年度(小学校)】全国の「正答数の少ない層」と同じ正答数の範囲に含まれる児童の割合

小学校国語A

檜山管内	全国
18.9%	21.3%
全国との差 2.4	少ない

小学校国語B

檜山管内	全国
33.6%	29.8%
全国との差 3.8	多い

小学校算数A

檜山管内	全国
23.7%	24.2%
全国との差 0.5	少ない

小学校算数B

檜山管内	全国
27.6%	20.0%
全国との差 7.6	多い